



管理

この章では、Cisco Nexus Dashboard Data Broker のプロファイルとユーザーについて詳しく説明します。

リリース 3.10.1 以降、Cisco Nexus Data Broker (NDB) は Cisco Nexus Dashboard Data Broker に名前が変更されました。ただし、GUI およびインストールフォルダ構造と対応させるため、一部の NDB のインスタンスがこのドキュメントには残されています。NDB/ Nexus Data Broker/ Nexus Dashboard Data Broker という記述は、相互に交換可能なものとして用いられています。

- [AAA](#) (1 ページ)
- [バックアップ/復元](#) (5 ページ)
- [Cluster](#) (8 ページ)
- [プロファイル](#) (9 ページ)
- [スライス](#) (11 ページ)
- [システム情報](#) (14 ページ)
- [ユーザ管理](#) (15 ページ)

AAA

[AAA] タブには、Nexus Dashboard Data Broker で使用可能な AAA サーバーの詳細が表示されます。AAA サーバーの詳細については、[AAA サーバーの概要](#) (4 ページ) を参照してください。

次の詳細の表が表示されます。

列名	説明
Server Address	AAA サーバの IP アドレス。
プロトコル	サーバーで実行されているプロトコル。次のオプションがあります。 <ul style="list-style-type: none">• TACACS• RADIUS+• LDAP

次のアクションは、[AAA] タブから実行できます。

- [サーバーの追加 (Add Server)] : これを使用して、新しい AAA サーバを追加します。詳細な手順については、[AAA サーバーの追加 \(2 ページ\)](#) を参照してください。
- [サーバーの削除 (Delete Server)] : 行の先頭にあるチェックボックスをオンにして、削除するサーバーを選択し、[アクション (Actions)] > [AAA サーバーの削除 (Delete AAA Server)] をクリックします。選択したサーバーが削除されます。チェックボックスを選択せずに削除アクションを選ぶと、エラーが表示されます。サーバーを選択するように求められます。

AAA サーバーの追加

この手順を使用して、AAA サーバーを追加します。

ステップ 1 [管理 (Administration)] > [AAA] に移動します。

ステップ 2 [アクション] ドロップダウンメニューから [AAA サーバーの追加 (Add AAA Server)] を選択します。

ステップ 3 [AAA サーバーの追加 (Add AAA Server)] ダイアログボックスで、次の詳細を入力します。

表 1: AAAサーバーの追加

フィールド	説明
全般	
プロトコル	AAA サーバーのプロトコルを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> • RADIUS • LDAP • TACACS 各オプションに関連するフィールドについては、以下で説明します。
プロトコル : Radius	
サーバー アドレス	サーバーの IP アドレスとドメイン名
シークレット	AAA サーバーで構成されたシークレット。
プロトコル : LDAP	
サーバー アドレス	サーバーの IP アドレスとドメイン名
ポート	AAA サーバーの通信ポート。

フィールド	説明
ユーザー RDN	<p>LDAP サーバーでの認証に使用される相対識別名 (RDN) を入力します。</p> <p>LDAPサーバーで定義されたユーザー階層。例：AAA でLDAPを構成する場合、次の階層 (LDAPで定義) を考慮してください。ユーザー 「cn=admin,ou=People,dc=ndb,dc=local」の場合、ユーザー RDN は「ou=People,dc=ndb,dc=local」。NDB がLDAPで構成された後、ログインするには、ユーザー名に <i>cn</i> 値のみを指定する必要があります。この場合、ユーザー名は「admin」です。</p>
ロール属性	<p>ユーザーの LDAP 認証属性であるロール属性を入力します。</p> <p>ロール属性は、DN の LDAP 内の任意の属性にすることができます。</p> <p>たとえば、<i>sn</i> をローカルLDAPサーバーで定義されたロール属性とします。したがって、NDBの管理者ユーザーの場合、<i>sn</i> 属性の値として「network-admin」を持つことができます。</p> <p>NDB がロール属性とユーザー RDN および管理ユーザーを使用してLDAPサーバーに接続すると、LDAP は認証として <i>sn</i> 値 (「network-admin」) を返します。</p>

フィールド	説明
ロール タイプ マッピング	<p>デフォルト 設定を有効にするために、ボタンをクリックします。 ロール マッピング の値のリストが表示されます。 デフォルト を有効にしている場合、既存のマップされた値は次のとおりになります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • network-admin — ネットワーク管理者 • network-operator — ネットワーク オペレータ • application-user—アプリケーションユーザー • slice-user — スライス ユーザー <p>デフォルトを無効にして、LDAP で定義された値を持つロールのカスタム マッピングを提供します。[ロール マッピング] 列のドロップダウンリストからロールを選択し、[ロール タイプ マッピング] 列にLDAP で定義された値を入力します。</p> <p>[行の追加] をクリックして、ロールタイプマッピングの行をさらに追加します。</p>
タイムアウト	LDAP サーバーが応答するまでの待ち時間を入力します。
プロトコル : TACACS+	
サーバー アドレス	TACACS+ サーバーの IP アドレス。
シークレット	TACACS+ サーバーで構成されたシークレット。
ユーザー名	サーバーにログインするためのユーザー名。
パスワード	サーバーにログインするためのパスワード。
サーバーの確認	[サーバーの確認] をクリックして、サーバーにアクセスできるかどうか、および認証資格情報が有効かどうかを確認します。

ステップ 4 **[AAA サーバーの追加 (Add AAA Servers)]** をクリックしてサーバーを追加します。

AAA サーバーの概要

AAA によって、セキュリティ アプライアンスが、ユーザーが誰か (認証)、ユーザーが何を
実行できるか (認可)、およびユーザーが何を実行したか (アカウントिंग) を判別する
ことが可能になります。Cisco Nexus Dashboard Data Broker は Remote Authentication Dial-In User

Service (RADIUS) または Terminal Access Controller Access Control System Plus (TACACS+) を使用して、AAA サーバーと通信します。

AAA サーバーは、リモート認証と認可をサポートします。各ユーザーを認証するために、Cisco Nexus Dashboard Data Broker はログインクレデンシャルと属性値 (AV) ペアの両方を使用します。AV ペアは、ユーザー管理の一環として、ユーザーに許可された役割を割り当てます。認証に成功すると、Cisco AV ペアはリソース アクセス許可のために Cisco Nexus Dashboard Data Broker に返されます。

バックアップ/復元

[バックアップ/復元] タブには 2 つのサブタブがあります。

- スケジュールされたバックアップ — Nexus Dashboard Data Broker コントローラでのバックアップのスケジュールの詳細については、[バックアップのスケジュール \(5 ページ\)](#) を参照してください。
- バックアップ — Nexus Dashboard Data Broker コントローラで完了したバックアップの詳細については、[バックアップ \(7 ページ\)](#) を参照してください。

バックアップのスケジュール

[バックアップのスケジュール] タブには、Nexus Dashboard Data Broker コントローラのスケジュールされたバックアップの詳細が表示されます。

次の詳細の表が表示されます。

表 2: バックアップ

列名	説明
開始日 (Start Date)	バックアップの開始日。
開始時刻 (Start Time)	バックアップの開始時刻。
終了日 (End Date)	バックアップの終了日。
パターン (Pattern)	バックアップ パターン。次のオプションがあります。 <ul style="list-style-type: none"> • 毎日 • 毎週 • 毎月
発生回数 (Occurrences)	選択したパターンに基づく発生数。

[バックアップ] タブから、次のアクションを実行できます。

- **バックアップのスケジュール** — これを使用して、バックアップをスケジュールします。
[バックアップのスケジュール作成 \(6 ページ\)](#) を参照してください。
- **ローカルにバックアップ** — 設定はローカル マシンにバックアップされます。
- **ローカルに復元** — 表示される [ローカルに復元] ウィンドウで、ローカル マシンからファイルを選択して構成を復元します。

Nexus Dashboard Data Broker の再起動後にアップロードされたバックアップから、Nexus Dashboard Data Broker でデバイスの構成を再構成する場合は、[復元] チェック ボックスを選択します。次の構成が再構成されます。

- グローバル設定
- ポート設定
- UDF
- 接続 (Connections)

[復元] チェックボックスは、NDB リリース 3.8 以降からダウンロードした構成にのみ適用できます。

バックアップのスケジュール作成

この手順を使用して、バックアップをスケジュールします。

Nexus Dashboard Data Broker の次のバージョンにアップグレードする前に、常にバックアップを作成することをお勧めします。

ステップ 1 [管理 (Administration)] > [バックアップ/復元 (Administration)] に移動します。

ステップ 2 [アクション (Actions)] ドロップダウンリストから、[バックアップのスケジュール作成 (Schedule Backup)] を選択します。

ステップ 3 [バックアップのスケジュール作成 (Schedule Backup)] ダイアログボックスで、次の詳細を入力します。

表 3: Schedule Backup

フィールド	説明
スケジュール	
開始日	バックアップの開始日。
開始時刻 (Start Time)	バックアップの開始時刻を入力します。

フィールド	説明
繰り返し	次のいずれかのオプションを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> • 毎日 — バックアップ操作は毎日行われます。 • 毎週 — バックアップ操作は、毎週、選択した曜日に実行されます。 • 毎月 — 毎月、選択した日付にバックアップ操作が開始されます。 <p>(注) 選択した月末までバックアップを実行するには、[最終日 (Last Day)] チェックボックスをオンにします。</p>
終了 (End)	次のいずれかのオプションを選択して、バックアッププロセスを停止します。 <ul style="list-style-type: none"> • 終了日なし (No End Date) — 引き続きバックアップを取得します。 • 終了日 (End Date) — 指定された終了日までバックアップを継続します。 • 発生 (Occurrences) — [発生数 (Number of Occurrences)] フィールドで選択した数に基づいてバックアップを作成します。
有効化 (Enable)	[有効化 (Enable)] チェックボックスはデフォルトでオンになっています。スケジュールに従ってバックアップを有効にするには、チェックボックスをオンのままにします。

ステップ 4 [スケジュール (Schedule)] をクリックします。

バックアップ

[バックアップ] タブにバックアップ情報が表示されます。

ここに表示される情報は、[バックアップのスケジュール作成](#)を使用して生成されたスケジュールに基づいています。次の詳細の表が表示されます。

列名	説明
品目	バックアップの時間。

列名	説明
クラスタのバックアップステータス	Nexus Dashboard Data Broker コントローラのクラスタバックアップステータス。次のオプションがあります。 <ul style="list-style-type: none"> • 成功 • 失敗
説明	バックアップの説明。
トリガーの復元	復元バックアップがトリガーされたときのタイムスタンプ。

[バックアップ] タブから次のアクションを実行できます。

- **NDBサーバーへのバックアップ** — NDBサーバーで指定された時刻にバックアップが作成されます。このオプションを選択すると、バックアップの詳細が [バックアップ] タブに表示されます。
- **バックアップの復元** — 選択したバックアップは、Nexus Dashboard Data Broker コントローラで復元されます。復元には常に最新のバックアップを選択することをお勧めします。古いバックアップを選択すると、最近のトポロジの変更に基づいて接続エラーが発生する可能性があります。



(注) バックアップを復元した後、Nexus Dashboard Data Broker コントローラを再起動します。

- **バックアップの削除** — 行の先頭にあるチェックボックスをオンにして、削除するバックアップを選択し、[アクション]>[バックアップの削除] をクリックします。

Cluster

[クラスタ] タブには、Nexus Dashboard Data Broker コントローラで使用可能なクラスタの詳細が表示されます。Nexus Dashboard Data Broker は、クラスタ内に最大 5 つのコントローラを使用したアクティブ/アクティブモードでの高可用性クラスタリングをサポートします。

次の詳細の表が表示されます。

列名	説明
コントローラ	コントローラの IP アドレス。
タイプ	表示されるオプションは、プライマリまたはメンバーです。



- (注) バックアップおよびアップロード機能を正しく動作させるには、クラスタ内のすべてのサーバーを停止してから再起動する必要があります。この間、機能を構成しないでください。アップロード構成が完了したら、データの不整合につながる可能性があるため、クラスター内の他のノードからは何も構成しないでください。



- (注) バックアップがアップロードされたら、クラスターのすべてのインスタンスをシャットダウンし、バックアップがアップロードされるサーバーを最初に起動する必要があります。

プロフィール

[プロフィール] タブには、Nexus Dashboard Data Broker コントローラで使用可能なプロフィールの詳細が表示されます。プロフィールを使用すると、Nexus Dashboard Data Broker コントローラに関連付けられた複数のデバイスを管理できます。複数のデバイスをプロフィールに接続できます。

プロフィール構成は、すべてのメンバー スイッチに適用されます。

次の詳細の表が表示されます。

列名	説明
プロフィール名 (Profile Name)	プロフィールの名前。
ユーザ名	プロフィールを作成したユーザー名。

[属性によるフィルタ処理 (Filter by attributes)] バーを使用して、表示されているフィルタの詳細に基づいてテーブルをフィルタ処理します。属性、演算子、およびフィルタ値を選択します。

[プロフィール] タブから、次のアクションを実行できます。

- **プロフィールの追加** — これを使用して、新しいプロフィールを追加します。このタスクの詳細については、「プロフィールの追加」を参照してください。
- **プロフィールの削除** — 行の先頭にあるチェックボックスをオンにして必要なプロフィールを選択し、[プロフィールの削除] をクリックします。選択したプロフィールが削除されます。チェックボックスを選択せずに削除アクションを選ぶと、エラーが表示されます。プロフィールを選択するように求められます。



- (注) 使用中のプロフィールは削除できません。

プロフィールの追加

この手順を使用して、新しいプロフィールを追加します。

ステップ1 [管理 (Administration)] > [プロフィール (Profile)] に移動します。

ステップ2 [アクション (Actions)] ドロップダウンメニューから [プロフィールの追加 (Add Profile)] を選択します。

ステップ3 [プロフィールの追加 (Add Profile)] ダイアログボックスに次の詳細を入力してください。

表 4: プロフィールの追加

フィールド	説明
プロフィール名 (Profile Name)	プロフィール名を入力します。
ユーザ名 (Username)	デバイスにログインするためのユーザー名を入力します。
Password	ユーザー名に対してパスワードを入力します。 パスワードは 8 ~ 256 文字の長さで、大文字と小文字を含み、少なくとも 1 個の数字と、少なくとも 1 個の英数字以外の文字を含む必要があります。

ステップ4 [プロフィールの追加 (Add Profile)] をクリックして新しいプロフィールを作成します。

プロフィールの編集

プロフィールを編集するには、次の手順を使用します。



(注) プロフィールを編集すると、そのプロフィールを使用しているデバイスが再接続されません。

始める前に

1 つ以上のプロフィールを作成します。

ステップ1 [管理 (Administration)] > [プロフィール (Profile)] に移動します。

ステップ2 表示された表で、プロフィール名をクリックします。

新しいペインは右側に表示されます。

ステップ3 [アクション (Actions)] をクリックし、[プロフィールの編集 (Edit Profile)] を選択します。

ステップ4 [プロフィールの編集] ダイアログ ボックスに、現在のプロフィール情報が表示されます。これらのフィールドを必要に応じて変更します。

表 5: プロフィールの編集

フィールド	説明
プロフィール名 (Profile Name)	プロフィール名が表示され、変更できません。
ユーザ名 (Username)	デバイスにログインするためのユーザ名を入力します。
Password	ユーザ名に対してパスワードを入力します。 パスワードは 8 ~ 256 文字の長さで、大文字と小文字を含み、少なくとも 1 個の数字と、少なくとも 1 個の英数字以外の文字を含む必要があります。

ステップ5 プロフィールを編集するには、[プロフィールの編集] をクリックします。

スライス

[スライス] タブには、Nexus Dashboard Data Broker で使用できるスライスの詳細が表示されます。

スライスを使用すると、ネットワークを多数の論理ネットワークに分割できます。詳細については、[スライスについて \(14 ページ\)](#) を参照してください。

別のネットワーク パーティションを表示するには、ヘッダーの [スライス] ボタンを使用してスライスを切り替えます。初期の Nexus Dashboard Data Broker ビルドの一部として、1 つのスライスが使用可能であり、**デフォルト** スライスと呼ばれます。次の構成は、Nexus Dashboard Data Broker コントローラのデフォルト スライスでのみ実行できます。

- 新しいデバイスの追加
- デバイスのグローバル構成の編集
- ユーザーのプロファイルの変更
- ユーザーおよび関連するロールのパラメーターの変更
- 一貫性のないデバイスと接続フローの修正

次の詳細の表が表示されます。

列名	説明
スライス	スライスの名前。 このフィールドはハイパーリンクです。スライス名をクリックすると、右側に新しいペインが表示されます。ここから実行できる追加のアクションは次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none">スライスの編集
ポートの構成	現在スライスの一部であるデバイス（または異なるデバイス）のポート。
利用可能なポート	現在スライスの一部ではないが、スライスに追加できるデバイス（または複数のデバイス）のポート。

[スライス] タブで次のアクションを実行できます。

- **スライスの追加** — このアクションの詳細については、「[スライスの追加](#)」を参照してください。
- **スライスの削除** — 削除するスライスを選択し、[アクション]>[スライスの削除]をクリックします。チェックボックスを選択せずに削除アクションを選択すると、エラーが表示され、スライスを選択するように求められます。

スライスの追加

この手順を使用して、スライスを追加します。



(注) デバイスは複数のスライスの一部にすることができます。ポートは、任意の時点で1つのスライスの一部にしかできません。

始める前に

デバイスのポートを新しいスライスに追加する前に、すでにデフォルトスライスの一部であるデバイスのすべてのポート構成と接続をクリアします。

ステップ1 [管理 (Administration)] > [スライス (Slices)] に移動します。

ステップ2 [アクション (Actions)] ドロップダウンメニューから [スライスの追加 (Add Slice)] を選択します。

ステップ3 [スライスの追加 (Add Slice)] ダイアログボックスで、次の詳細を入力します。

表 6: スライスの追加

フィールド	説明
全般	
スライス名	スライスの名前を入力します。
[ポート (Port)]	[ポートの選択] をクリックし、[ポートの選択] ウィンドウでデバイスと必要なポートを選択します。 (注) デバイスのすべてのポートが同じスライス上にあることを確認してください。

ステップ 4 [スライスの追加] をクリックして、スライスを作成します。

(注) 新しいスライスが追加されると、デフォルトのスライスは読み取り専用モードになります。アクティブなポート構成および/または接続がデフォルトのスライスに存在する場合、それは使用不可になります。

スライスに追加されたデバイスがスライスに表示されます。たとえば、デバイス D1 がスライス S1 に追加され、デバイスが保守モード（または障害状態または準備不可状態）になると、デバイスは S1 に表示されなくなり、デフォルトのスライスに表示されます。

スライスの編集

この手順を使用して、スライスを編集します。

始める前に

スライスからポートを削除する前に、ポートのポート構成を削除してください。

ステップ 1 [管理] > [スライス] に移動します。

ステップ 2 スライス名をクリックします。新しいウィンドウが右側に開きます。

ステップ 3 [アクション] > [スライスの編集] をクリックします。

[スライスの編集 (Edit Slice)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 4 [スライスの編集 (Edit Slice)] ウィンドウで必要な変更を行います。次の詳細情報が表示されます。

表 7: スライスの編集

フィールド	説明
全般	

フィールド	説明
スライス名	スライスの名前。このフィールドは変更できません。
[ポート (Port)]	スライスの一部であるポートが一覧表示されます。必要に応じて削除/追加できます。

ステップ 5 [スライスの編集] をクリックします。

スライスについて

スライスを使用すると、ネットワークを多数の論理ネットワークに分割できます。この機能により、複数の切り離されたネットワークを作成し、それぞれに異なるロールとアクセスレベルを割り当てることができます。各論理ネットワークは、部門、個人のグループ、またはアプリケーションに割り当てることができます。複数の切り離されたネットワークは、Cisco Nexus Dashboard Data Broker アプリケーションを使用して管理できます。

スライスは、次の基準に基づいて作成されます。

- ネットワーク デバイス：スライスに使用できるデバイス。ネットワーク デバイスはスライス間で共有できます。
- ネットワーク デバイス インターフェイス：スライスに使用できるデバイス インターフェイス。ネットワーク デバイス インターフェイスはスライス間で共有できます。

スライスは、ネットワーク管理者ロールを持つ Cisco Nexus Dashboard Data Broker ユーザーが作成する必要があります。作成後、スライスは Slice Administrator ロールを持つユーザーが管理できます。

システム情報

[システム情報] タブには、Nexus Dashboard Data Broker コントローラおよび Nexus Dashboard Data Broker コントローラ ホストに関するすべての情報が表示されます。この情報は、次の 2 つの見出しの下にあります。

- **NDB 情報** — インストールタイプ、現在のビルド番号、以前のビルド番号などの情報が含まれます。
- **システム情報** — Nexus Dashboard Data Broker コントローラ ホストの合計メモリ、物理メモリ、使用済みメモリ、空きメモリなどの情報が含まれます。

ユーザ管理

[ユーザ管理 (User Management)] タブには、次のサブタブがあります。

- **[ユーザ]** — Nexus Dashboard Data Broker コントローラーのユーザー。詳細については、「[ユーザ](#)」を参照してください。
- **[ロール]** — ユーザーが割り当てられているロール。詳細については、「[ロール \(Roles\)](#)」を参照してください。
- **[グループ]** : ポートが割り当てられているデバイスグループ。詳細については、「[グループ](#)」を参照してください。

ユーザ

[ユーザ] タブには、Nexus Dashboard Data Broker コントローラーのユーザーの詳細が表示されます。

次の詳細の表が表示されます。

列名	説明
ユーザー	<p>ユーザーのログイン名。</p> <p>このフィールドはハイパーリンクです。[ユーザ]をクリックすると、新しいペインが右側に表示されます。次の追加アクションがここで実行できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ユーザーのパスワードの変更 • ユーザーの役割の変更
ロール	ユーザーの作成中に割り当てられたユーザーのロール。

[ユーザ] タブから次のアクションを実行できます。

- **ユーザーの追加** — これを使用して、新しいユーザーを追加します。このタスクの詳細については、「[ユーザーの追加](#)」を参照してください。
- **ユーザーの削除** — 行の先頭にあるチェックボックスをオンにして、削除するユーザーを選択し、[[ユーザーの削除](#)]をクリックします。選択したユーザーが削除されます。チェックボックスを選択せずに削除アクションを選ぶと、エラーが表示されます。ユーザーを選択するように求められます。

ユーザーの追加

この手順を使用して、新しいユーザーを追加します。

始める前に

新しいユーザーに割り当てることができるロールを作成します。

ステップ 1 [管理] > [ユーザー管理] > [ユーザー] に移動します。

ステップ 2 [アクション] ドロップダウンメニューから [ユーザーの追加 (Add User)] を選択します。

ステップ 3 [ユーザーの追加 (Add User)] ダイアログボックスで、次の詳細を入力します。

表 8: ユーザの追加

フィールド	説明
ユーザー名	ユーザ名を入力します。
Password	管理ユーザーのパスワードを入力します。 パスワードは 8 ~ 256 文字の長さで、大文字と小文字を含み、少なくとも 1 個の数字と、少なくとも 1 個の英数字以外の文字を含む必要があります。
パスワードの確認	パスワードを再入力して確認します。
ユーザー タイプの選択	次のいずれかのオプションを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> • 通常ユーザー — スライスなしで NDB コントローラにログインできます (デフォルトのスライス)。 • スライスユーザー — 特定のスライスにのみアクセスできます。
スライスを選択 このフィールドは、ユーザータイプがスライスユーザーの場合にのみ適用されます。	ドロップダウンリストからデバイスを選択します。作成されたユーザーは、選択したスライスにのみアクセスできます。

フィールド	説明
ロールの設定 このフィールドは、ユーザータイプが 通常ユーザー の場合にのみ適用されます。	<p>[ロールの選択] を選択します。表示される [ロールの選択] ダイアログ ボックスで、ユーザーに割り当てるロールのチェック ボックスをオンにします。ロールの詳細が右側に表示されます。 [選択] をクリックしてロールを割り当てます。特定のユーザーに複数のロールを割り当てることができます。</p> <p>使用可能なロール オプションは次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ネットワーク管理者 (Network Admin) : すべてのアプリケーションに対する完全な管理者権限を提供します。 ネットワーク オペレータ (Network Operator) - すべてのアプリケーションに読み取り専用権限を提供します。

ステップ 4 [**ユーザーの追加**] をクリックして、新しいユーザーを追加します。

(注) ユーザーを作成した後で、パスワードは変更できますが、ユーザーに割り当てられたロールは変更できません。

ユーザーのパスワードの変更

ユーザーのパスワードを表示するためには、次の手順を使用します。

始める前に

1人以上のユーザーを作成します。

ステップ 1 [管理] > [ユーザー管理] > [ユーザー] に移動します。

ステップ 2 ユーザー名をクリックします。新しいウィンドウが右側に開きます。

ステップ 3 [アクション (Action)] > [パスワードの変更 (Change Password)] をクリックします。

[パスワードの変更 (Change Password)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 4 [パスワードの変更 (Change Password)] ウィンドウで必要な変更を行います。次の詳細情報が表示されません。

表 9: パスワードの変更

フィールド	説明
全般	

フィールド	説明
ユーザー名	ユーザ名。このフィールドは変更できません。
現在のパスワード	ユーザー名の現在のパスワードを入力します。 (注) このフィールドは、管理者ユーザーのみに表示されます。
パスワード	新しいパスワードを入力します。
パスワードの確認	再度、新しいパスワードを入力します。

ステップ5 [パスワードを変更 (Change Password)] をクリックします。

ユーザーの役割の変更

ユーザーのロールを変更するためには、次の手順を使用します。

始める前に

1人以上のユーザーを作成します。

ステップ1 [管理] > [ユーザー管理] > [ユーザー] に移動します。

ステップ2 ユーザー名をクリックします。右側に新しいウィンドウが開きます。

ステップ3 [アクション (Action)] > [ロールの変更 (Change Role)] をクリックします。

[ロールの変更 (Change Role)] ウィンドウが表示されます。

ステップ4 [ロールの変更 (Change Role)] ウィンドウで必要な変更を行います。次の詳細情報が表示されます。

表 10: 役割の変更

フィールド	説明
全般	
ユーザー名	ユーザ名。このフィールドは変更できません。
ユーザー タイプの選択	通常ユーザーまたはスライスユーザーのいずれかを選択します。
スライスを選択	ドロップダウンリストからオプションを選択します。 このオプションは、ユーザー タイプの選択が [スライスユーザー] の場合にのみ表示されます。

フィールド	説明
ロールの選択	<p>[ロールの選択]をクリックすると、[ロールの選択]ウィンドウが表示されます。ラジオボタンを使用してロールを選択し、[選択]をクリックします。</p> <p>このオプションは、ユーザータイプの選択が通常のユーザーである場合にのみ表示されます。</p>

ステップ 5 [保存 (Save)] をクリックします。

ロール (Roles)

[**ロール**] タブには、Nexus Dashboard Data Broker コントローラで使用可能なロールの詳細が表示されます。デフォルトのロールは次のとおりです。

- Network-Admin
- network-operator

票には次の詳細が表示されます。

列名	説明
ロール	<p>ロールの名前。</p> <p>表示名はハイパーリンクです。ロール名をクリックすると、右側に新しいペインが表示されます。ここから実行できる追加アクションは次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none">• ロールへのグループの割り当て

列名	説明
レベル	<p>ロールに割り当てられるレベル。次のレベルが利用可能です。</p> <ul style="list-style-type: none"> • App-Administrator - すべてのデータブローカーリソースへのフルアクセス権がありますが、App-Administratorは、NXAPI または実稼働デバイスを Nexus Dashboard Data Broker に追加できません。管理者タブが App-Administrator ロール用の Nexus Dashboard Data Broker で使用できないためです。 • App-User - 自分のリソース グループに割り当てられている接続とリダイレクト、および同様の権限を持つ別のユーザーによって作成されたリソースを作成、編集、複製、または削除するアクセス権があります。App-User は、Edge-SPAN、タップ、監視デバイス、および実稼働ポートのみを表示できます。 <p>App-User は、Nexus Dashboard Data Broker のトポロジ ページで、同様の権限を持つ別のユーザーによって作成されたリソースを表示できます。ただし、Edge-SPAN または別の App-User によって作成された接続を構成することはできません。</p> <ul style="list-style-type: none"> • App-Operator - 読み取り専用操作にアクセスできます。
グループ	ロールに割り当てられるグループ。

[ロール] タブから、次のアクションを実行できます。

- **ロールの追加** — これを使用して、新しいロールを追加します。このタスクの詳細については、「[ロールの追加](#)」を参照してください。
- **ロールの削除** — 行の先頭にあるチェックボックスをオンにして削除するロールを選択し、[アクション]メニューから[ロールの削除]をクリックします。チェックボックスを選択せずに削除アクションを選ぶと、エラーが表示されます。ロールを選択するように求められます。



(注) デフォルト ロールは削除できません。

ロールの追加

この手順を使用して、ロールを追加し、そのロールをグループに関連付けます。

始める前に

ロールに関連付ける 1 つ以上のグループを作成します。

ステップ 1 [管理]>[ユーザー管理]>[ロール]に移動します。

ステップ 2 [アクション (Actions)] ドロップダウンメニューから [ロールの追加 (Add Role)] を選択します。

ステップ 3 [ロールの追加 (Add Role)] ダイアログボックスで、次の詳細を入力します。

表 11: ロールの追加

フィールド	説明
ロール名 (Role Name)	ロール名を入力します。
レベルの選択	ドロップダウン リストからレベルを選択します。

ステップ 4 [追加 (Add)] をクリックしてロールを追加します。

ロールへのグループの割り当て

この手順を使用して、グループをロールに割り当てます。これにより、ロールは割り当てられたグループのポートのみにアクセスできます。

始める前に

1 つ以上のグループを追加します。

ステップ 1 [管理]>[ユーザー管理]>[ロール]に移動します。

ステップ 2 表示されたテーブルでロール名をクリックします。

新しいペインは右側に表示されます。

ステップ 3 [アクション]>[グループの割り当て (Assign Group)] をクリックします。

次の詳細を入力します。

表 12: グループの割り当て

フィールド	説明
ロール名 (Role Name)	ロール名。このフィールドは編集できません。

フィールド	説明
[レベルの選択]	ロールのレベル。このフィールドは編集できません。
[グループの設定]	[グループの選択]をクリックし、表示される[グループの選択]ウィンドウでグループを選択します。

ステップ4 [割り当て (Assign)] をクリックします。

グループ

[グループ] タブには、ポートグループの詳細が表示されます。デフォルトのグループは次のとおりです。

- allPorts

グループは、1つのデバイスまたは多数のデバイスにまたがるポートのグループにすることができます。

次の詳細の表が表示されます。

列名	説明
グループ	グループの名前。 表示された名前はハイパーリンクです。名前をクリックすると、グループの詳細が表示されます。
ポート	グループに割り当てられたポートの数。

[グループ] タブから、次のアクションを実行できます。

- **グループの追加**— これを使用して、新しいグループを追加します。詳細については、「[グループの追加](#)」を参照してください。
- **グループの削除**— 行の先頭にあるチェックボックスをオンにして削除するグループを選択し、[アクション]メニューから[グループの削除]をクリックします。チェックボックスを選択せずに削除アクションを選ぶと、エラーが表示されます。グループを選択するように求められます。



(注) デフォルトグループは削除できません。

グループの追加

新しいグループを作成するには、次の手順を実行します。

ユーザーのポートへのアクセスを定義するためのグループが作成されます。グループは役割に割り当てられます。ユーザーは役割に関連付けられています。

ステップ 1 [管理]>[ユーザー管理]>[グループ] に移動します。

ステップ 2 [アクション (Actions)] ドロップダウンメニューから [グループの追加 (Add Group)] を選択します。

ステップ 3 [グループの追加 (Add Group)] ダイアログ ボックスから、次の詳細を入力します。

表 13: グループの追加

フィールド	説明
グループ名	グループ名を入力します。
選択したポート	[ポートの選択] をクリックします。開いた [ポートの選択] ダイアログ ボックスで、チェック ボックスをオンにして、ポートをグループに割り当てます。ポートの詳細が右側に表示されます。[選択] をクリックしてポートを割り当てます。

ステップ 4 [グループの追加 (Add Group)] をクリックして、グループを追加します。

翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。